

焦点

今月号は、市の借金である「市債」について説明します。



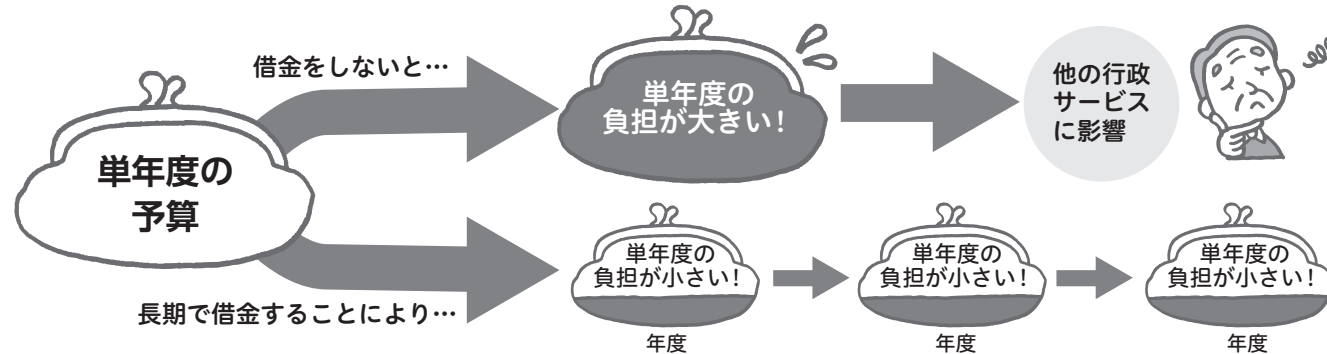
問合先
市役所財政課 (☎31-4512)

どうして借金をするの？

市が大きな買い物（主に道路、公園、学校などの公共施設の建設）をする時に、国や銀行などから借り入れる長期の借金のことを「市債」といい、償還金（元金や利息）のことを「公債費」といいます。そもそも市が借金をするのはどうしてなのでしょう。大きく分けて2つの理由があるのをご存じですか？

①年度ごとの負担を軽減できる

市は税金などの限りある収入の中でさまざまな行政サービスを提供していますので、公共施設の建設費を単年度で支払ってしまうとお金が足りなくなり、他の行政サービスが提供できなくなります。お金を借りて長期間に分割して返済することにより、単年度の負担が軽減（平準化）され、行政サービスへの影響を小さくすることができます。



②世代間の負担を公平化できる

公共施設は多くの人々が長い間利用するための施設です。例えば公共施設の建設費を単年度の税金だけで賄うとすると、その年度に税金を納めた人だけが建設費を負担することになり、翌年度以降に市内に引っ越してくる人や、将来納税の義務を負う若い人たちは、何も負担しないままその施設を利用することができることになり、不公平が生じてしまいます。

借りたお金を長期間に渡って返済することは、将来納税の義務を負う人たちに対しても負担を求めることになりますので、現在と将来の世代間で、公平に負担をしてもらうことができます。

